盆踊りコーナー

『盆踊り練習と食事支援』

夏休み中の子どもの居場所づくりや多世代交流を行う目的で「本羽田一丁目町会盆踊り会」と称し、わが地域の自主活動団体「おおたラーメンこども食堂」と協働で、大田区の令和5年度長期休暇中の子どもの居場所づくり補助事業に挑戦しました。

子ども達も大満足でした

実施回数は8月中6回、参加者は1日約30名、延べ約180名で盆踊り練習や夏休み宿題補助等の学習支援、朝、昼、おやつ等の食事提供を行いました。盆踊り当日は踊り手が増え、練習を重ねた子ども達の元気なパワーで大変賑やかに開催できました。「また踊りたい」「来年もやりたい」との声もいただき、地域行事継承と担い手育成が叶いました。

（本羽田一丁目町会）

『納涼盆踊り』

昨年8月18日、19日、本羽田三丁目都南自治町会の盆踊りが行われました。

両日合わせて参加人数280名とコロナで中止となっていた4年間を取り戻そうと踊る姿に残暑を忘れ、楽しい時を共有することができました。模擬店も出ておいしい焼きそばを頂き、子供たちもヨーヨーつりやスーパーボールすくいと楽しんでいました。

町会役員、婦人部、萩中鼓友会の方々素敵な盆踊りをありがとうございました。

（本羽田三丁目都南自治町会）

模擬店も大盛り上がり

『祭りと盆踊り』

4年振りの祭典。喜びと町会役員も準備等の変更がある戸惑いの中無事に終わることができました。また盆踊りも1日目には各ブースに子供達が喜びそうな店を出し、2日目には久しぶりに櫓を組み、お囃子の太鼓で皆さん盆踊りを楽しんでいました。

迫力満点

（羽田西町町会）

『亀楽健康文化のつどい開催』

本羽田二丁目亀楽会は94名の会員です。さる7月26日に「令和5年度第1回亀楽健康文化のつどい」を開催し、オープニングの民謡を楽しむ会に21名の方が参加され、会員さんの親戚の方など5名の方が津軽三味線と尺八、唄やお囃子で花笠音頭、秋田大黒舞、出船音頭などを演奏していただきました。

その余韻が残る第二部は4月～8月生まれの8名の誕生祝い、「折り紙・食事・おしゃべり」の会です。50年前の糀谷駅に初めて降り立ったときに感じた驚き、一人暮らしで亀楽会に入ってお話しできる方が増えたこと、ジムに通って健康づくりに努めていること、若いころの思い出などです。民謡の響で心も温まり、笑いの波が磯辺に寄せる思いがする会となりました。

（本羽田二丁目町会）

美しい音色でした

『町会行事はどれも笑顔！笑顔！』

令和5年は町会行事を4年ぶりにやっと開催することができました。干支の兎とヒナ人形の押絵、ゴキブリ団子づくり、盆踊り、お祭り、夏のラジオ体操、シジミ取り等大盛況でした。涙を流しながら玉ねぎをすって作ったゴキブリ団子は、ゴキブリが全くいなくなると喜びの声があちこちから上がりました。また盆踊りは4回の踊りの練習会は毎回30人以上も参加があり、2日間で過去最高の約千五百名の参加者数となりました。ばち会の生太鼓で3重4重の輪になって老若男女が大爆発した2時間半でした。

本年もリニューアルした本羽田第三公園で楽しい町会行事ができますように願っています。

（羽田本町三丁目町会）

涙と格闘！

『穴守稲荷神社　献灯祭』

令和5年8月25日（金）・26日（土）の2日間、穴守稲荷神社の「献灯祭」が夕方6時より斎行された。コロナ禍で縮小開催が続いていたが、今回は4年ぶりの本格開催。

羽田にあるダンススクール「きりんくらぶ。」の未就学児から中学生の子供たちおよそ30人が、行灯にロウソクで灯を入れたのち、新楽殿にてダンスを披露。

境内に並ぶ様々なお願い事が書かれた約800基の行灯は、日が落ちて暗くなると、とても神秘的に見えた。

（投稿）

神秘的な行灯

TOPICS

『令和5年度 蒲田消防団消防操法大会』

6月18日（日）大田区立東糀谷防災公園において、令和5年度蒲田消防団消防操法大会が実施され、全7分団が日頃の訓練の成果を発揮すべく、全力で可搬ポンプ操法を披露しました。

各分団は6名で構成され、競技には指揮者と隊員4名が参加。可搬ポンプからホース3本を延長して第1標的に放水する基本操法を始め、更にホースを1本増やして第2標的に放水する応用操法などを競い合いました。審査項目はタイム・操作手順・規律・節度などで、その結果われら第4分団（受持ち区域：羽田一～六丁目、羽田旭町、羽田空港一～三丁目）が見事優勝を飾りました。

これからも訓練を重ね、私たちが住む町の安全を守っていきたいと思います。なお蒲田消防署では消防団員を募集しています。18歳以上で、蒲田署管内に居住もしくは勤務か通学している方が対象で、詳細は蒲田消防署HPまたは蒲田消防署までお電話でご確認ください。

（蒲田消防団第4分団）

見事優勝を飾りました

『新町会会館初の祭礼』

羽田大鳥居町会では、新羽田大鳥居町会会館が令和2年6月に竣工となりました。コロナ禍により祭礼の中止が続き、令和5年にようやく新町会会館を使用して初めての祭礼となりました。

捧納板をどこに建てるのか、会館まわりの提灯をどこに張るのか、手探りで準備を進めてなんとか祭礼当日を迎えました。

羽田大鳥居町会では祭礼で子供神輿と山車の巡行を行っています。子ども達も積極的に参加してくれてコロナ前と変わらない巡行が出来ました。酷暑の中しっかり休憩をとりながら、無事に2日間の巡行を終えることが出来ました。

新町会会館での準備から酷暑の中の巡行まで町内の皆様の協力を頂き無事に祭礼が出来ましたことに感謝をいたします。

令和6年も町内が一つになり、楽しく祭礼ができる事を願っております。

（羽田大鳥居町会）

子ども山車巡行

『文化センターだより』

まだ暑さの残る9月30日（土）と10月1日（日）の両日に4年ぶりに萩中文化センターで「萩中ふれあいまつり」を開くことが出来ました。いつものメンバーも年を重ね、職員さんの入れ替わりもありました。準備は想像以上に大変でしたが、千五百名以上の参加もあり、賑やかな祭になりました。

展示サークルは、コロナでも「作品展」として開催していましたが、発表のサークルは4年ぶりということで素敵に出来上がっていました。模擬店は外で作ることはせず、こぶしの会が調理を引き受け、ご飯もの・から揚げ・ドーナツまで、上手に作ってくれました。他と変わりなく高齢化が進む文化センターもやり方を工夫しつつ、地域の方たちのコミュニケーションの場の役割を果たしていきたいと思います。

（萩中ふれあいまつり実行委員長　村山 美智恵）

華麗なダンスを披露

羽田空港トリビア50

◆ 羽田空港の始まり ◆

今回は新春号と言うことで、新たな年の始まりにかけて羽田空港の始まりについて紹介します。

昭和初期、東京での民間機は、立川にあった陸軍の「立川陸軍飛行場」を間借りし運用をしていましたが、都心から遠いことや、陸軍との共用飛行場で制約が多いことなどから、新たな飛行場建設が進められ、鈴木新田の埋め立て地（現在の羽田空港の旧整備場地区付近）に、1931年（昭和6年）日本で初めての民間航空専用の公共飛行場が「東京飛行場」として、長さ300mの滑走路1本でスタートしました。（現A滑走路3000m）

この場所は当時水上飛行機の利用が多いことから、海域に隣接するという長所も大きな選定理由でした。

東京飛行場での記念すべき第1便は、大連行きの6名乗り小型旅客機でしたが、残念ながら旅客ではなく、松虫と鈴虫が貨物として運ばれました。当時の運賃は高額で庶民には縁遠い乗り物だったようです。

羽田空港が始まり92年が経過した現在では、4本の滑走路により一日1300便の離発着と、一日約20万人の旅客が行き交う空港へと発展し、日本の経済の維持と発展に貢献しています。

ちなみに、初代の空港長は、飛行機で世界一周を成し遂げた「ニッポン号」の機長でもあった中尾純利（なかおすみとし）氏で、連合国軍から大部分が返還された 1952年（昭和27年） 7月に民間から任命されました。

この時「東京飛行場」から「東京国際空港」と改名され羽田空港は再出発することになりました。

［委員長］ 伊藤幸子 ［副委員長］ 兼平恵美子 石井悦子 渡部昌子 ［委員］ 廣嶋のり子 小山幹雄 邉見昌尚 海津佐代子 長嶋寿子
鈴木勇 吉田由紀 鈴木由美 中根剛弘 大纏脩雅 宮下精二 良田光代 藪谷秀子 藤原かおり 田村孝子 高月忠秋